

教 科 国語

科 目 論理国語

授業科目	論理国語	単位数	3単位	履修形態	必修 ・ 選択
履修学年	高校2年	コース	普通科		
教科書	論理国語 (大修館)	副教材	学習課題ノート (大修館)、総合学力テスト (ベネッセ) 参考資料 文学国語 (大修館)		
授業概要	主体的・対話的で深い学びをとおして、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的、批判的、創造的に考える力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高めることができる。				
授業内容 および 到達目標		単 元	目 標		教 材
	1 学 期	世界・言語・私	これからの時代における「書く」「読む」力について、自分の考えをもつ。		・世界を広げる「批評」の言葉
		芸術と文化	比喩的な表現に注意し、論の展開をとらえる。筆者の主張をふまえて、美しさについて理解を深める。		・ミロのヴィーナス
		共同体のいま	統計資料や事例と筆者の主張との関係を捉える。社会構造の変化が、思考・感情に影響を与えることについて考えを深める。		・家族化するペット ・コミュニティから見た日本
		他者との出会い 読書のすすめ	文学的な文章について知り、着目すべきポイントを知ることで、より深く楽しく読む姿勢を養う。		・少なくとも最後まで歩かなかつた ・ナイン
	2 学 期	科学の可能性	小見出しごとのまとまりに着目して、論の展開を押さえ、筆者の主張をとらえる。		・人工知能と可能性と畏
		日本語の多様性	敬語についての筆者の主張と論理の展開を的確につかむ。敬語や若者言葉など、言葉と社会の関心に興味をもち、考えを深める。筆者の方言に対する視点や分析のしかたを的確にとらえる。方言と社会の変容との関心に興味をもち、探究する。		・敬語への自覚、他社への自覚
		思考の枠組み	実験結果などの具体例の本文中での役割を理解し、主張を読み取る。記憶や学習におけるスキーマの働きを理解し、ものの見方を広げる。エピソードや具体例の役割に注意し、本文と図版を関係づけながら読む。		・スキーマと記憶
		名作を読む 表現を味わう	場面設定をおさえ、人物像をとらえる 効果的な表現技法に注目する		・山月記 ・近代の詩
	3 学 期	社会の原点	論の展開のしかたや、具体的なエピソードの意図を理解する。言語・法・貨幣がどのような存在かを読み取り、社会に対する認識を深める。学説を引きながら論述する文章を読み、主張をとらえる。食習慣を切り口にして人類社会の成り立ちについて考える。		・分かち合う社会 ・社会的実在としての言語・法・貨幣
		グローバル化の 先へ	文章全体の構成を意識して、筆者の主張をとらえる。文明と海や人との関係を知り、普遍的な文明について理解を深める。小見出しごとに文章の要旨をとらえ、筆者の主張をつかむ。グローバル時代における文化の多様性の価値を考える。		・心に「海」を持つて
			社会に生きる	心情・情景描写を読み取る	

教科 国語

科目 古典探究

授業科目	古典探究	単位数	2単位	履修形態	必修 ・ 選択
履修学年	高校2年 普通科	コース			
教科書	古典探究 古文編 漢文編（大修館）	副教材	教科書準拠ワーク スタディーサポート活用ブック 解析古典文法（桐原） 漢文入門（浜島書店） さくらさく古典単語		
授業概要	<p>1 生涯にわたる社会生活に必要な知識や技能を身につけるとともに、日本の伝統的な言語文化に対する理解を深める</p> <p>2 先人たちのものの見方、感じ方、考え方を知り、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることによって、人生を豊かにする態度を養う。</p> <p>3 生涯にわたって古典に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
授業内容 および 到達目標		単 元	目 標	教 材	
	1 学 期	説話	古典を読むために必要な文語の決まりや、昔の文化や生活に対する基礎的知識を持つ。登場人物の行動や場面の展開、和歌に現れた心情を読み取る。	・大江山いくのの道	
		随筆（一）	古典を読むために必要な文語の決まりや、古典特有の表現などについて理解をする。作品の内容や解釈を踏まえ、自分の物の見方や考え方を深める。 声に出すことによって、古典特有のリズムや表現を味わう態度を養う。	・方丈記 行く河の流れ	
		物語	古典の作品や文章に表れている、リズム、習字、技法などの表現の特色について理解を深める。	・伊勢物語 初冠 渚の院	
	2 学 期	随筆（二）	作品や文章の歴史的・文化的背景を理解する。歴史的な文体の変化について理解を深める 作品に描かれた登場人物の心情や生き方を通して、自分の生き方や考え方を考える。	・枕草子 中納言参りたまひて	
		日記	和歌に注目しながら、歴史的な文化背景、当時の人の表現を読み取る。	・十六夜日記 駿河路	
		故事・逸話	漢文の読み方を復習し、内容を読み取る。	・漱石枕流	
		史伝	歴史上実在する人物の生き方を通じて、生き方を学ぶ。中国の歴史書の表現の特徴と我が国に与えた影響を知る。	・項羽と劉邦	
	3 学 期	思想	中国での思想に触れ、それがどのように日本文化に影響を与えているのかを学ぶ。	・本性	
		漢詩	漢語の特色を活かして緊密に構成された韻文の訓読を通じて、漢詩の構成を知る。そこから詩の味わい方を学ぶ。	・漢詩	

令和7年度歴史総合シラバス

教科 社会 単位数 2
 科目 歴史総合 学級 高校3年ICT科、高校2年普通科
 教科書 山川出版 歴総704『歴史総合』

月	単元	学習目標
4月	世界のつながり	おもに18世紀以降の時代を扱う歴史総合だが、ここでは、それ以前の時代の、世界のつながりの概観を確認し、その後の学習につなげる。生徒の実態にあわせ、中学校までの学習を補充したり、世界の状況を把握・理解したりするために活用する。
5月	歴史の扉	①身近な事柄が、時間的な推移や空間的な結びつきのなかで歴史と結びつきをもっていることを理解する。 ②私たちの生活に関わる制度や習慣について分析する際に、歴史的に構築されていることをふまえることが大切であることを理解する。 ①資料にもとづいて歴史が叙述されていることを理解する。 ②資料の性格をふまえ批判的に読みとることについて理解する。
6月	第1部 近代化と私たち	「交通と貿易」「産業と人口」「権利意識と政治参加、国民の義務」「学校教育」「労働と家族」「移民」についての諸資料を活用して、情報を読みとったりまとめたりする技能を習得し、人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。
7月	第1章 結びつく世界と日本の開国	①日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをとらえ、立憲体制と国民国家の形成について理解する。 ②国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治改革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察する。
9月	第2章 国民国家と明治維新 近代化と現代的な諸課題	①日清戦争後の欧米列強や日本の勢力拡大に対する、清や朝鮮の政府や民衆の動向について理解する。 ②日露戦争後の日本の動向、および韓国の植民地化など東アジアをめぐる国際関係の変容について理解する。 ③日露戦争後、辛亥革命に至る中国の民族運動と近代化の動向について理解する。 近代化の歴史に存在した「開発・保全」「対立・協調」「自由・制限」に関わる課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかについて理解する。
10月	第3章 総力戦と社会運動	国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在した「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」に関わる課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかを理解する。
11月		①東西両陣営の社会がどのように変容したのかを、アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国およびソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力などを通じて理解する。 ②1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて理解する。 ①米・ソを中心とする宇宙開発競争や核軍拡の展開について、キューバ危機と部分核実験禁止条約を事例として理解する。 ②反核・平和運動の始まりと展開について、日本の事例を中心に考察する。 ③宇都宮県議会の議案と影響について理解する。 ④核兵器禁止条約の背景と展開、および原子力発電所事故などの事例について考察する。 ⑤デタントが崩壊する過程について理解する。
12月		①西ヨーロッパ統合の背景と歴史的な過程について理解する。 ②東南アジアにおける連携と、ASEANの性格の変化について理解する。 ③アラブ・アフリカ・南北アメリカにおける連携の特徴について理解する。 ①第三世界がアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの社会をどのようにみていたのかについて理解する。 ②計画経済の特徴とその影響について理解する。 ③1960年代以降に明らかとなるソ連の不安定化について理解する。 ④中華人民共和国における社会主義体制の形成と大躍進運動について理解する。 ⑤プロレタリア文化大革命の展開と特徴について理解する。
1月	第4章 経済危機と第二次世界大戦	①日本の高度経済成長の要因について、世界経済や日本の社会構造、および政治との関わりから理解する。 ②保守政権が経済成長を重視するようになった経緯や結果、および人々のとらえ方について理解する。 ③日本の高度経済成長による生活や社会の変容について、新たに生じた課題などを理解する。 ①東アジア・東南アジアの国々との戦後処理や、国交正常化の経緯や影響について理解する。 ②日本と東アジア諸国の関係や沖縄をめぐる課題が、アメリカ合衆国の東アジア政策の変化と関わりをもって展開したことを、資料から理解する。
2月	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	①ドル＝ショックの背景と内容、および影響について理解する。 ②オイル＝ショックの背景と影響について理解する。 ③大きな政府路線の行き詰まりについて理解する。 ④日本における高度経済成長の終焉について理解する。 ⑤日本の安定成長と経済厚生の展開について理解する。 ①アジアNIESとASEANの成長と展開について理解する。 ②東南アジアの開発独裁の実態について理解する。 ③インドの政治と社会について理解する。 ④西アジア諸国と石油および資源ナショナリズムの展開について理解する。 ①新自由主義の特徴について、イギリスや日本の事例から理解する。 ②ブラザビア合意後の貿易自由化の展開について理解する。 ③20世紀後半の環境問題について理解する。
3月	グローバル化と私たち	①マイクロエレクトロニクス（ME）産業や情報技術（IT）革命とも呼ばれる情報通信技術の発展により、21世紀には高度情報化社会・知識基盤社会が到来したことを理解する。 ②高度情報社会が新たな課題を生み出し、従来の社会のあり方が変容をせまられていることを理解する。 ③現代的諸課題の形成や課題解決について歴史的経緯をもとに考察する。 ①ソ連の改革と冷戦の終結について理解する。 ②東ヨーロッパにおける社会主義体制の解体について理解する。 ③ソ連の崩壊とロシア共和国の状況について理解する。 ①中国で改革・開放路線が採用され急速な経済発展が進み、東アジアにおける地位が変化したことを理解する。 ②韓国や台湾の民主化や、北朝鮮の体制、国際社会との関係について理解する。 ③高度経済成長終焉後の日本の状況について、成長する東アジア諸国との関連のなかで考察する。 ①東南アジア諸国の民主化の経過、および日本のPKO活動について理解する。 ②南アフリカのアパルトヘイト政策の内容と撤廃までの経過を理解する。 ③ラテンアメリカ諸国の民主化の経過とアメリカとの関係について理解する。 ①各地域統合の経済的特徴について理解する。 ②EUの成立までの経過と課題について理解する。 ③世界での自由貿易協定（NAFTA・FTA・TPP・WTOなど）の内容と課題について理解する。 ④アジアでの自由貿易協定の動きと日本との関係を理解する。 ①冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ②紛争の解決に国際機構や日本が果たした役割について理解する。 ③冷戦終結から現代に至るまでの諸課題の形成について整理し、今後の課題解決について考察する。 ①歴史的経緯をふまえて、現代的な諸課題を理解する。 ②諸資料から現代的課題の所在や、それらの原因や背景を分析するための手立てを理解する。 ③現代的諸課題への問題意識をもち、問いを表現できるようにする。 ①歴史的な見方や考え方を生かして、現代的な諸課題を考察する方法を理解する。 ②現在の課題解決や将来を構想するうえで、歴史的な見方・考え方を活用することが有効であることを理解する。 ③現代的諸課題に対して、歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察し、表現できるようにする。

教科…数学

科目…数学Ⅱ

科目	数学Ⅱ	単位数	4単位	履修形態	必修・選択
学年	2年	コース	普通科		
教科書	NEXT 数学Ⅱ (数研出版)	副教材	CONNECT 数学Ⅱ+B (数研出版)		
授業概要	数学Ⅱでは、高校1年生で学んだ領域を発展させ、より数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにします。また、指数・対数、微分法・積分法を学び、自然科学が発展してきた要素を学びます。				
授業内容 および 到達目標		単 元	目 標		教 材
	1 学 期	式と証明 *式と計算 *等式の証明	(1) 公式の理解 (2) 計算 (3) 証明	教科書 副教材 プリント	
		複素数と方程式 *複素数と2次方程式の解 *高次方程式	(1) 複素数の計算ができる。 (2) 解と係数の関係を理解する。 (3) 高次方程式を解くことができる。		
		図形と方程式 *点と直線 *円 *軌跡と領域	(1) 内分点・外分点の座標を求める。 (2) 図形と方程式の関係を理解する。 (3) 円と図形の位置関係を理解する。 (4) 条件から軌跡を求めることができる。		
	2 学 期	三角関数 *三角関数 *加法定理	(1) 角の大きさを弧度法で表す。 (2) 三角関数をグラフで表す。 (3) 加法定理を用いて三角関数の値を求める。		
		指数関数と対数関数 *指数関数 *対数関数	(1) 指数法則・指数関数を理解する。 (2) 対数・対数関数を理解する。 (3) 常用対数を使うことができる。		
		微分法と積分法 *微分係数と導関数 *関数の値の変化 *積分法	(1) 平均変化率から接線を理解する。 (2) 極値を理解し関数の増減を求める。 (3) 積分法を理解する。 (4) 積分から面積を求めることができる。		
	3 学 期	平面上のベクトル *ベクトルとその演算 *ベクトルと平面図形	(1) ベクトルを理解する。 (2) 位置ベクトルを理解する。 (3) 図形への応用ができる。		
		空間のベクトル	(1) 内積を計算できる。 (2) 平面上の点Pをベクトルで表す。 (3) 直線上の点の位置ベクトルを求める。		

令和 8 年度 年間学習計画

科目名 [数学 B (2 単位)]

担当学級 [高校 2 年 I 組 (普通科)]

担当者 [谷下 智浩] 印

使用テキスト [NEXT 数学 B (数研出版)]

使用問題集 [CONNECT 数学 II + B (数研出版), 練習ドリル 数学 B (標準) (数研出版)]

月	時間	単元	配当時間	指導の要点	備考
4	6	第 1 章 数列 1. 数列と一般項	1	数列とは何かを知り、項の値や一般項を求める	
5	3	2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 [中間試験]	2 2 2 1	等差数列の性質を知り、項の値や一般項を求める 等差数列の和を求める公式の理解と活用 等比数列の性質を知り、項の値や一般項を求める 等比数列の和を求める公式の理解と活用	
5	1	6. 和の記号 Σ	3	Σ 記号の意味の理解と Σ 公式の活用	
6	7	7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	2 3	階差数列や n 項までの和から元の数列の一般項を求める いろいろな数列の和を工夫して求める、群数列の様々な問題を考える	
7	2	[問題演習] [期末試験]	2		
9	7	9. 漸化式	6	様々な漸化式から一般項を求める方法を理解する	
10	2	10. 数学的帰納法 [中間試験]	3	帰納法を用いて等式や不等式の証明をする	
10	4	第 2 章 統計的な推測 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散	2 3	確率分布表を作り、 $P(a \leq X \leq b)$ の確率を求める 期待値と分散、標準偏差を求める。また、変数を変換した $aX + b$ の期待値や分散を求める。	
11	4	3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 [期末試験]	2 2	X と Y の同時分布における和 $X + Y$ や積 XY の期待値や分散を求める。 二項分布における期待値と分散を求める。	二項分布は次回の試験に回す可能性あり。
12	5	5. 正規分布	5	連続型確率変数と確率密度関数、正規分布と標準正規分布などを知り、その確率を求める。また、二項分布を正規分布で近似して確率を概算する。	
1	8	6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定	1 2 2	母集団からの標本抽出、母平均と母標準偏差を知る。 標本平均の期待値と標準偏差を求める。標本平均を正規分布で近似してその確率を求める。標本比率を二項分布で近似する。 標本平均や標本比率から母平均や母比率を推定する。その信頼区間を求める。	
2	2	[問題演習] [学年末試験]	1	仮説が正しいかどうかをあらかじめ決めた 5% などの有意水準を基に検定する。	
3	1				第 3 章 数学と社会生活はやらない。

宿題について……問題集の指定した問題を次回までにノートにやる。
 次回の授業始めに 2 題ほどを代表者 2 名に板書してもらう。
 その間に他の生徒の宿題をチェック。

定期試験について……記述式での出題。
 ① 知識・技能については、用語、記号の確認と基本的活用を見る問題
 ② 思考力・判断力・表現力については、応用力を見る問題
 ③ 主体的な態度については、簡単な作問を問う問題やテストに向けた取り組みの感想や反省などを書かせる問題

教 科 理 科 科 目 生 物 基 礎

授業科目	生物基礎		単位数	2 単位	履修形態	必修	
履修学年	2 年		コース	普通科			
教科書	第一学習社 高等学校改訂生物基礎		副教材	第一学習社 セミナー生物基礎			
授業概要	地球上に生息している多様な生物の共通点について理解を深める授業です。これらを理解することで生物が生きていくために必要な仕組みについて理解をすることが出来ます。また、生物同士や生物と環境との関わりについても学習します。						
授業内容 および 到達目標	単 元	目 標			教 材		
1 学 期	生物の特徴	生物に様々な種類がいるが、共通性もあることを理解する。生物を形成している細胞の様々な機能について理解する。			原核生物 真核生物 顕微鏡		
	2 学 期	遺伝子とその働き ヒトの体の調節	遺伝子とは何か。どのようにして親から子へ伝えられるのかを理解する。また、遺伝子が体の中でどのように働いているかを学ぶ。 生物の体内環境はさまざまな働きによって一定に保たれていることを理解し、その仕組みについて説明することができる。			DNA タンパク質 転写・翻訳 体液 肝臓・心臓 腎臓	
	3 学 期	植生と遷移 生態系とその保全	生物がそれぞれの環境に適応してきたことを理解し、どの地域にどのバイオームがみられるかを考えながら理解する。 生態系の成り立ちと、それを取り巻くさまざまな環境問題などについて学ぶ。			植生 バイオーム 生態系 地球温暖化 外来生物	

教 科 保健体育

科 目 保健

授業科目	保健	単位数	1 単位	履修形態	○必修 ・ 選択
履修学年	高校 2 年	コース	全学年		
教科書	最新高等保健体育（大修館書店）		副教材	最新高等保健体育ノート（大修館書店）	
授業概要	<p>私達の身体と心は年齢と共に変化している。健康の為に私たちや社会のなすべき事も同様に变化する。ここでは、思春期から中高年期までの健康に関わる事や、各年齢層で必要な保健・医療サービスの活用などを学習させる。又、健康で生きていく上で私達を取り巻く自然環境、また社会制度や活動などが深く関わっており、個人の努力が組み合わさって健康が実現する。健康に関する環境・食品の問題や働く事と健康との関連について、学習させたい。</p>				
内容		単 元	目 標	教 材	
および 到達目標	1 学 期	生涯を通じる健康	思春期の身体と心の健康を理解させる。	生涯の各段階 における健康 P C 使用	
			性意識の男女差・性的欲求・性行動について知る。		
			心身の発達と健康な結婚生活を理解させる。		
	2 学 期		受精・妊娠・出産について知る。	性についての 話し合い 保健・医療制 度及び地域の 保健・医療機 関	
			家族計画と避妊法について理解させる。		
			加齢と健康について知る。		
			高齢者の保健・医療・福祉について理解させる。 (医療制度を含む)		
	3 学 期	社会生活と健康	食品と環境の保健について	環境と健康 P C 使用	
			大気汚染・水質汚濁・土壌汚染と健康被害について		
			公害について調査		
			健康被害の防止と環境対策を知る。	労働と健康	
			労働災害・職業病について		

教科 保健体育

科目 体育

授業科目	体育	単位数	2単位	履修形態	○必修 ・ 選択	
履修学年	高校2年	コース	普通科			
教科書	なし	副教材	アクティブスポーツ 大修館書店			
授業概要	運動を通して知識を深めるとともに技能を高め、体力の向上を図り、生涯スポーツの実現を目指す。					
授業内容 および 到達目標	単 元	目 標			教 材	
1 学 期	体育理論	スポーツの文化的特性について理解できるようにする。				
	体ほぐし運動	運動を通して、自己の体に関心を持ち、自分や仲間 の状態に気づくことができるようにする。				
	新体力テスト	持久走を含む8種目 Aランクを目標				
	水泳	自由形・平泳ぎ・背泳ぎの3泳法の個々の能力の 向上を図る。				
	バスケットボール	ドリブル、パス、シュートにおける個々の能力の 向上を図る。				
	2 学 期	ダンス	創作を通じて仲間との交流を図り、楽しさをより 強く表現できるようにする。			
		器械運動	柔軟性を高めていくことを目指す。ほん転系の技 を正しい姿勢でできるようにする。			
		体育理論	スポーツの文化的特性について理解できるように する。			
		新体力テスト	持久走を含む8種目 Aランクを目標			
	3 学 期	サッカー	パス、ドリブル、シュートの技術の向上を図り、 安全な試合展開ができるようにする。			
		武道	基本的な技術を身につけ、試合での勝敗を競い合 う楽しさや喜びを味わう。			

教科 音楽

授業科目	音楽	履修学年	高校2年
教科書	高校音楽1 教育芸術社		
授業概要	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに音楽表現に必要な技能を身に付ける。		
授業内容 および 到達目標	単元	目標	教材
1 学 期	曲想と音楽の構造との関わりを理解して合唱しよう。	曲想と音楽の構造や歌詞の内容を理解し、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。	校歌
	音楽の共通言語を覚えよう。	音楽を体系的に理解し、音楽表現の方法を学ぶ。	音楽通論
	ギターの色や響きを知り、演奏してみよう。	ギターの奏法を理解し、それを生かした曲にふさわしい器楽表現を身に付ける。	ギター
	和楽器の色や響きを知り、演奏してみよう。	篠笛の奏法を理解し、それを生かした曲にふさわしい器楽表現を身に付ける。	篠笛
	音色や音の重なり方の特徴を理解しアンサンブルを楽しもう。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。全体の響きや各部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する。	アンサンブル
	2 学 期		

教科 美術

授業科目	美術		単位数	1単位	履修形態	必修・選択○
履修学年	高校2年		コース	ICT科 普通科		
教科書	光村図書 美術1			副教材		
授業概要	高校2年生では、美術の基礎となる観察力や画力を高める作品作りをしていきます。					
授業内容 および 到達目標	前期	単元	目 標		教 材	
		①美術概論	①1年間の美術の流れを知る。			
		②名画模写 (絵画 素描)	①名画を知り、色作りを学ぶ。 ②色や筆使いをよく見て観察力を高める。 ③お手本を観察し、写実的な力をつける。		名画資料 アクリル絵の具 メディウム	
		③ドライポイント (版画 鑑賞) ゆい年賀状コンクール	①2025年巳年のデザインをする。 ②凹版の良さを理解し、動きのある。 ③線の重なりや強弱で立体感を追究する。		PP版 ニードル 油性インク	
	④制服デザイン (デザイン) トンボ1129コンクール	①自らのアイデアを出すことができる。 ②機能的、独創的なデザインを書く。 ③色を付けてコンクールに出す。		1129コンクールの用紙 絵の具、色鉛筆 コピックなど		
	後期	⑤人物動物デッサン (素描)	①人物と動物の骨格の違いを理解する		スケッチブック 鉛筆	
		⑥アートグラス (デザイン 構成 鑑賞)	①動物や植物の構造を学ぶ。 ②お手本を観察し、写実的な力をつける。 ③繊細な描写力をつける。		資料画像 アートグラス ニードル	

教科芸術

科目書道 I

授業科目	芸選 書道	単位数	1 単位	履修形態	必修 ・ 選択
履修学年	高2年	科	ICT科・普通科		
教科書	書道1 大修館		副教材		
授業概要	書道の諸活動を通して書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力と態度を育てるとともに書を愛好する心情を養う。				
授業内容 および 到達目標	単元	目標			教材
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書之美を求めて ・ 書の学び方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書の特質や学習の全体像を学習する ・ 表現と鑑賞の相互関連など、書の学び方について理解する ・ ご書体の歴史の変遷について理解する 			資料〔書道史年表〕 教科書
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刻字の学習 ・ 書と刻字 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印の歴史と篆書の理解 ・ 篆刻の手順の理解（姓名印の製作） ・ 落款の理解 			教科書 篆刻刻字ブック P60-65
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字（楷書） ・ 臨書 ・ 創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な楷書表現を理解する ・ 古典を生かした表現の工夫 <p>A（孔子廟堂碑）（九成宮禮泉銘）（雁塔聖教序） （顔氏家廟碑）</p> <p>B（牛厥造像記）（鄭義下碑）</p> <p>C（隅寺心經）</p>			教科書 P14-35
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字（行書） ・ 臨書 ・ 創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行書の特徴 ・ 運筆のリズムと気脈の貫通 <p>A（蘭亭序）</p> <p>B（争坐位文稿）</p> <p>C（風信帖）</p>			教科書 P84-91
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名 ・ 漢字仮名交じりの書 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名の歴史 ・ 基本用筆（運筆・連綿） ・ 表現の工夫 ・ 一年間のまとめとして作品一枚（新春書作展）発表する 			教科書 P108~112	

教科 外国語 科目 コミュニケーション英語Ⅱ

授業科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4 単位	履修形態	必修・ 選択	
履修学年	高校 2 年 普通科	コース				
教科書	ELEMENT English Communication Ⅱ	副教材	システム英単語 10 分速読ドリル 高校リード英語構文 エースクラウン英和辞典			
授業概要	英文を読み、内容を理解し、表現することができる。					
授業内容	単 元	目 標		教 材		
および 到達目標	1 学期	L1 Cultures around the World L2 Power of Words L3 Preconception	英文を読み、内容を十分に理解できる。 英単語を理解したり、書くことができる。 英文を正確に表現することができる。 文法を理解し、正しい選択をすることができる。		システム英単語 10 分速読 高校リード	
	2 学期	L4 The Century of War L5 How Our Minds Work L6 It and Life	英文を読み、内容を十分に理解することができる。 内容を理解した上で、正しく正確に解答することができる。 英単語を正確に日本語に、日本語を英単語にすることができる。 日本語を見て、英文を表現することができる。 文法を理解し、正しい選択をすることができる。		システム英単語 10 分速読 高校リード	
	3 学期	L7 Advances in Medical Technology L8 A Tiny Step, a Big Impact	長い英文を読み、内容を理解することができる。 内容を理解した上で、正しく解答することができる。 英単語を日本語に、日本語を英単語にすることができる。 日本語を見て、英文を表現することができる。 文法を理解し、正しい選択をすることができる。		速読英単語 10 分速読 高校リード	

MY WAY English Communication II [CII 708]

シラバス案

L = LESSON, C = Challenge, R = Reading

課	タイトル	主な言語材料	題材/場面	はたらき	L	S や	S 発	R	W	配当 時間
L1	Dances Around the World	SVO (O=that/what 節) / SVO (O=if/whether 節) / SVO1O2 (O2=if/that/what節)	ダンス、比較文化 / レポート・学校生活	相づちを打つ 主張する	○	○	○	○	○	4
	C	“Cheer Dance”	学校生活		○	○	○	○	○	1
L2	Katsura Sunshine – Making the World Laugh	形式主語のit / 形式目的語のit① / 形式目的語のit②	日本文化、比較文化 / インタビュー・学校 生活	話題を発展さ せる 説明する	○	○	○	○	○	4
	C	Sunshine’s Funny Little Story	買い物		○	○	○	○	○	1
Basic Skills for Writing 1		つなぎことばを使ってパラグラフを書こう [比 較・対照]							○	0.5
Basic Skills for Speaking 1		論理的に意見を伝え合おう				○				0.5
Sounds 1		子音の発音に注意しよう			○	○				0.5
Vocabulary Building 1		日本語と英語の対応に注意しよう								0.5
L3	Living with Nature – Takita Asuka’s Journey	現在完了形・現在完了進行形 / 過去完了 形 / 過去完了進行形	共生、平和 / 講演・学校生活	心配する 理由を述べる	○	○	○	○	○	4
	C	Nakamura Tetsu – A Respectable Doctor	地域での活動		○	○	○	○	○	1
Across Subjects 1		Math				○				0.5
Across Subjects 2		Biology				○				0.5
L4	Sesame Street	SVOC (V=知覚動詞、C=動詞の原形) / SVOC (V=知覚動詞、C=過去分詞) / SVOC (V=使役動詞have/make、C=過去 分詞) / help+O+動詞の原形	多様性、異文化 / 雑誌記事・学校生活	聞き直す 説明する	○	○	○	○	○	5
	C	Barbapapa	本・雑誌		○	○	○	○	○	1
Basic Skills for Writing 2		複数のパラグラフで書こう (基本構成)							○	0.5
Basic Skills for Speaking 2		意見を引き出す質問をしよう				○	○			0.5
Sounds 2		母音の発音に注意しよう			○	○				0.5
Vocabulary Building 2		関連する単語に注意しよう								0.5
L5	From Landmines to Herbs	関係代名詞 (主格) / 前置詞+関係代 名詞 / 関係代名詞の非制限用法 / 関係 副詞の非制限用法	平和、異文化 / 雑誌 記事・地域での生 活	提案する 説明する	○	○	○	○	○	5
	C	Restoring Angkor Wat	地域での活動		○	○	○	○	○	1
R1	The Little Prince		物語 / 本	描写する	○	○	○	○	○	5
L6	Murals—The Power of Public Art	助動詞 / 助動詞の過去形を使った表現 / 助動詞+have+過去分詞 / 完了不定詞	芸術、異文化 / レ ポート、学校生活	描写する 理由を述べる	○	○	○	○	○	5
	C	Banksy	地域での活動		○	○	○	○	○	1
Sounds 3		ストレス・リズムに注意しよう			○	○				0.5
Vocabulary Building 3		単語の中心的な意味に注意しよう								0.5
L7	“Englishes” in the World	分詞構文 / 受け身の分詞構文 / 完了形 の分詞構文 / 付帯状況with	言語、異文化 / 講 演・学校生活	助言する 理由を述べる	○	○	○	○	○	5
	C	Local Varieties of English	日常生活		○	○	○	○	○	1
Across Subjects 3		Geography				○				0.5
Across Subjects 4		Home Economics				○				0.5
L8	Deepika Kurup – The Science Behind Clean Water	仮定法過去 / 仮定法過去完了 / ifを使わ ない仮定法 / no matter+疑問詞	科学、環境、生き方/ インタビュー・地域 での活動	仮定する ほめる	○	○	○	○	○	5
	C	Marina Tex	地域での活動		○	○	○	○	○	1
Basic Skills for Writing 3		複数のパラグラフで書こう [問題・解決]							○	0.5
Basic Skills for Speaking 3		意見を確認しながら討論しよう				○	○			0.5
L9	The World’s Poorest President	同格を表すthat節 / 強調構文 / 倒置/ 省略	人物、生き方 / 雑 誌記事・日常生活	共感する 説明する	○	○	○	○	○	5
	C	Fika –The Secret to Happiness	日常生活		○	○	○	○	○	1
Sounds 4		イントネーションに注意しよう 世界の英語に親しもう			○	○				0.5
Vocabulary Building 4		アメリカ英語とイギリス英語の違いを知ろう								0.5
L10	Living in an E-Society—The Pros and Cons		デジタル社会 / 討 論 / 日常生活	主張する 賛成する 反対する 理由を述べる 共感する	○	○	○	○	○	2
	Pros and Cons of an Esports Club	Ebooks vs. Printed Books				○	○			2
	Activity					○	○			2
R2	Syria’s Secret Library		物語 / 本	描写する	○	○	○	○	○	5
WORD LIST										
IDIOM LIST										

教科 家庭 科目 家庭基礎

授業科目	家庭基礎	単位数	2 単位	履修形態	必修・選択	
履修学年	2 年 ICT科・普通科	コース				
教科書	Creative living『家庭基礎』で生活をつくろう改訂版（大修館）	副教材				
授業概要	男女が総合に協力し、家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことの重要性について認識させる。また自分らしさを見つけ実習を取り入れながら、実生活の中で生かせる知識や技術を身につける。自分の暮らしが常に地球全体でつながっているという意識をもって、一人ひとりが自分のどうすればよいか、SDGSについて考える。					
授業内容	単 元	目 標		教 材		
および 到達目標	1 学 期	「経済生活のマネージメント」	・将来どのような生活を送りたいかをイメージし、実現するための手段について考える。 成人年齢が18歳になったことで、消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性について理解する。消費者保護の仕組みについて理解する。		教科書 プリント DVD 「18歳までに学ぶ契約の知恵」	
		「青年期の課題と自立」	・自分らしさ、生き方について考え、ジェンダーに関する知識を身につけ男女平等意識を高める。		DVD 「生命誕生」 「生命誕生2」	
		「家族・家庭生活のマネージメント」	・家族・家庭の機能について理解し、将来の自分の結婚や家庭を想像する。		調理実習	
		「子どもの生活と子育てのマネージメント」	・命の尊さにふれることで、乳幼児に関心・興味を持たせる。幼児の遊び、食物、及び被服に関する学習を通して、その心身の発達に応じた生活について理解させ、幼児に対する関心を高める。子どものおやつ作りを通して、3食の食事ではとりきれない栄養を補う大切な役割があることを理解する。子育てや育児に関するサポート施設や支援を知る。		子どものおやつ	

2 学 期	<p>「高齢期の生活のマネージメント」</p> <p>「衣生活のマネージメント」</p> <p>「住生活のマネージメント」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の変化と特徴を知り、健康状態に伴う暮らし方の変化を理解する。 高齢者福祉や子育てに関する社会支援について理解する。 ・被服の基礎的な知識を理解する。 被服材料について科学的に理解する。 着装に関心を持ち、自分の個性を見つめ、自分らしい着装とTPOについて考える。 被服実習「ポーチ作り」 基礎縫いの習得（並縫い、まつり縫い、本返し縫い、ボタン付け） 基礎縫いテスト 住まいの役割を理解させる。日本の自然災害や盗難などの被害を防止する工夫を考える。 	<p>教科書</p> <p>プリント</p> <p>被服実習</p> <p>「ポーチ作り」</p>
3 学 期	<p>「食生活のマネージメント」</p> <p>まとめ</p>	<p>各栄養素の特徴と働きを理解する。また、食品添加物の働き、人体への害・危険性を理解し、健康で安全な食生活を営むことができるようにする。</p> <p>現代の食に関する問題点を知り、食に関してさまざまな角度から考えられるようにする。</p> <p>調理実習を行い、調理技術を身につける。</p> <p>SDGs について考える。日常の生活行動を未来の社会設計につなげる。</p>	<p>教科書</p> <p>プリント</p> <p>調理実習</p>

探究基礎（普通科2年生）

授業科目	探究基礎	単位数	2単位	履修形態	必修
履修学年	高校2年	担当教員	小林悠真 榎本あかり		
教科書	スモールスタート【教育と探求社】	副教材	エデュカネット 中小機構起業家教育プログラム		
授業概要	身の回りにある「小さな気づき」を種として、新しい商品やサービスを開発する起業家体験プログラムです。ゼロからイチを生み出す「起業家精神（アントレプレナーシップ）」を教室で実践的に学びます。				
授業内容 および 到達目標	単元	目 標		備 考	
	一 学 期	<p>【発見】日常を観察し、種を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シードの探索 ⇒街歩きやインタビューを通じ、日常生活の中にある「困りごと」や「ワクワクするもの」を収集。 ・視点の転換 ⇒当たり前前の風景から、新しい価値を生み出すための「問い」を立てる力を養う。 ・ビルディング ⇒メンバーとアイデアを共有し、協力してプロジェクトを進める土台を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会への関心と課題発見力の育成 日常生活の中から「困りごと」や「ワクワクするもの」を自ら見つけ出し、社会のニーズを捉える観察力を養う。 ・ゼロからイチを生む創造的思考の習得 既存の枠組みにとらわれない自由な発想でアイデアを広げ、新しい商品やサービスの「種」を構想する創造性を育む。 		
	二 学 期	<p>【構築】アイデアを形にしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に見つけた「種」 ⇒具体的なビジネスプラン（商品やサービス）にする。 ・ビジネスモデルの設計 ⇒「誰が、なぜ、どのように幸せになるのか」を深掘りし、サービスの仕組みや収益構造を考案。 ・試作とブラッシュアップ ⇒ラフな試作（プロトタイプ）を作り、周囲からのフィードバックを受けてプランを修正。 ・コンセプトの言語化 ⇒自分たちのアイデアが持つ独自の価値を、明確な言葉に落とし込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの仕組みを理解する実践的知性の獲得 アイデアを具体的なビジネスモデル（誰をどのように幸せにし、どう収益を上げるか）に落とし込むことで、経済活動の基礎を学ぶ。 ・チームによる共創力とコミュニケーション能力の向上 多様な意見を持つメンバーとアイデアを共有し、フィードバックを取り入れながらプランをブラッシュアップする協働の姿勢を身につける。 		
	三 学 期	<p>【発信】社会へ提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成したプラン ⇒クラスや学年、そして社会に向けてプレゼンテーションする。 ・プレゼン準備 ⇒相手の心を動かすストーリー構成や、視覚的な資料（スライド等）を作成。 ・成果発表会 ⇒クラス内での発表を経て、選ばれたチームは全国大会「クエストカップ」への出展・出場を目指す。 ・振り返りと深化 ⇒一連の活動を通じ、自分自身の変化や「創造的自信（自分も価値を生み出せるという確信）」を言語化する。 ・探究プロジェクトの始動・企画・イベント参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者意識（主体性）と創造的自信の醸成 自らの気づきを形にして社会へ発信するプロセスを通じ、「自分たちの手で新しい価値を生み出せる」という自信と主体的に社会に関わる態度を養う。 ・「だし」を通じた地域活性化プロジェクトにおいて、地元企業（西尾商店）との協働により、伝統的な食文化を現代的な視点で再解釈する活動に邁進していく。一連の商品開発プロセスを完遂し、理論と実践を融合させた高い探究姿勢を養う。 		